

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社 サライ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地 (電話番号)	福岡市西区能古324 - 1 (電話) 092 - 894 - 1305		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年4月21日

【情報提供票より】(H22年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算	17.1人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築 / 改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	62 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田訪問内科、能古診療所、南川整形外科病院、木村訪問歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

能古島は、博多湾の中央に浮かぶ人口約800人の島で、高層マンション群や大型商業施設のある福岡市西区の渡船場からはフェリーで約10分というロケーションでありながら、豊かな自然に囲まれており、観光名所としても有名である。この島唯一のグループホームである「みんなの家」では、「笑顔のある暮らし」という理念のもと、入居者と職員が四季折々の木々に囲まれ、季節の移りかわりを感じながら、穏やかな時間を共に過ごしている。ホームの庭には広いウッドデッキや畑があり、海を眺めながらティータイムを楽しんだり、季節の野菜を収穫したりしている。近隣にある同法人のデイサービスセンターとともに、地域の中で大切な役割を担っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題については全職員で検討し、1つひとつ取り組んでいる。理念に関しては、従来の理念に加え、地域密着型サービスとしての基本方針を追加した。運営推進会議に関しては、2ヶ月に1回の定期的な開催をするなど、サービス向上のために様々な工夫をし、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で検討し、管理者がひとつにまとめている。自己評価項目を確認することで、ホームの姿や現状の理解ができている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、入居者家族、民生委員、地域代表、行政担当者、駐在所、消防団、医師からなり、状況報告、意見交換、医師による医療面からの講話、行政担当者による権利擁護に関する説明などを行い、サービスの向上に活かしている。昨年度は4~5ヶ月に1回の開催であったが、今年度は2ヶ月に1回の開催とし、できるだけ多くのメンバーが出席できる様に日程を考慮したため徐々に出席者が増えるなど、取り組みの成果がみられる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族会を開き、家族だけで話す機会を設けたり、玄関ホールに苦情ボックスを設置し、意見などを出しやすい環境づくりをしている。寄せられた意見などに対しては、管理者と職員で検討し、運営に反映している。来訪できない家族も多いことからアンケートの実施を検討しているとのこと、更にサービスの質向上が期待できる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りや清掃活動には、入居者と職員がともに参加している。また、ホームでの行事に地域のボランティアや老人会、中学生によるリコーダー演奏などの参加があり、双方向の交流ができている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員でつくった「笑顔のある暮らし」という従来の理念を見直した。地域密着型サービスとしてのホームのあり方を管理者、職員で検討し、地域密着型サービスとしての内容が盛り込まれた、4つの項目からなる基本方針を追加している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関ホールや各階フロアに掲示し、日常的に確認している。月に1回の会議の中で、入居者が日々の生活を楽しむための工夫や地域との関わりなどについて話し合うなどし、理念の共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや清掃活動には、入居者と職員がともに参加している。また、ホームでの行事に地域のボランティアや老人会、中学生によるリコーダー演奏などの参加があり、双方向の交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で検討し、管理者がひとつにまとめている。昨年の外部評価結果については、改善項目を全職員で検討・改善し、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、入居者家族、民生委員、地域代表、行政担当者、駐在所、消防団、医師からなり、状況報告、意見交換、医師による医療面からの講話、行政担当者による権利擁護に関する説明などを行い、サービスの向上に活かしている。2ヶ月に1回の開催とし、できるだけ多くのメンバーが出席できるように日程を考慮して徐々に出席者が増えるなど、努力の成果がみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や包括支援センターとは、更新の手続き時などに状況報告や相談を行い、意見やアドバイスを受けている。ホームのパンフレットを送付したり電話で相談をするなどして、連携をとっている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	外部研修に参加し、ホームでの伝達研修を行っている。また、パンフレットを玄関に設置し、誰でも見ることができる状態である。現在、制度の活用を検討中である入居者が居ることもあり、職員は制度について概ね理解はできている。更に理解を深めるための研修などを計画している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的な報告としては、3ヶ月に1回「みんなの家新聞」を発行し、行事の報告や職員紹介を写真付きで掲載している。個々に合わせた報告としては、家族の来訪時や、週2回の往診時に報告や相談を行い、来訪できない家族へは手紙を送付して報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開き、家族だけで話す機会を設けたり、玄関ホールに苦情ボックスを設置し、意見などを出しやすい環境づくりをしている。寄せられた要望や意見などに対して検討し、運営に反映している。来訪できない家族も多いことから、アンケートの実施を検討しているとのことで、更なるサービスの質向上が期待できる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動がある場合は、入居者の状況に応じて職員と入居者で話したり、混乱が生じそうな場合は、他の職員がフォローするなどして、入居者への影響を最小限に防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用時には、性別や年齢を理由に採用対象から排除せず、意欲や人柄を考慮し、採用している。また、採用時に特技や趣味を聴き取り、採用後の日々の業務の中で能力を發揮できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権の尊重については、外部研修に参加したり、内部研修や月1回の会議で議題にあげるなどし、意識向上に努めている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や各自の資格取得の希望に対して、勤務調整を行い支援している。また、月1回の会議では、担当職員がその時に必要な議題を決め、全員で研修を行っている。管理者や職員の積極的な姿勢がみられる。段階に応じて研修を計画的に行うという点では、現在途上である。		新任や現任の職員がスキルアップを図るために、年間計画を立て段階に応じた研修を行い、職員それぞれが知識や技術を豊富に身につけることで、ホーム全体のサービスの質の向上につながることを期待する。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者などが、外部研修に参加した際に同業者と交流を持ち、他のグループホームが来訪するなどの機会はあるが、職員が同業者と交流する機会は現在のところ持っていない。		管理者などは、自身をはじめ、職員が同業者との交流を持つことの必要性を感じており、意欲もある。どのような手段で交流の機会を持つか検討し、実践していくことが望まれる。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず自宅を訪問し、本人、家族から希望や状況を聴き取っている。徐々に馴染めるような工夫としては、併設のデイサービスからの入居も多いことから、デイサービス利用中にホームに遊びに来たり、各階にある宿泊室で体験入居を行うなどしている。入居後は、家族が宿泊室に宿泊し、入居者と家族がともに過ごす時間をつくるなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の生活歴や情報を共有し、喜びや寂しさも共感しつつ傾聴している。日々の関わりの中で、スキップや視線を同じくすることを大切にしている。入居者の昔の知恵を学び、生活の中で参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前後のアセスメントだけでなく、入居者と家族との会話を聴き取ることで、希望や意向を把握している。センター方式を取り入れているため、本人の好きな事やできる事が明らかになり、更に本人の思いや意向を把握することができている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前後に管理者や計画作成担当者が入居者・家族と話し合い、本人の意向の添った計画を作成している。月に1回の会議において担当の職員だけでなく、他の職員からも意見やアイデアが出されるなど、全職員が介護計画の作成に関わっている。受診時や往診時の主治医からの意見も聴き取り、介護計画に反映するように努力している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングと、ケアプラン実施表をもとに介護計画を見直している。入居後は1、2週間程度の暫定の介護計画を作成し見直しを行ったり、変化が生じた場合は随時変化に合わせた介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望や状況に応じて、希望する病院への通院、遠方の親類との面会、個別の買い物、家族の宿泊や送迎など、臨機応変に柔軟に支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の週1回の往診があるが、本人、家族の希望するかかりつけ医の受診や往診も柔軟に支援している。また、歯科、皮膚科、整形外科などの受診の支援も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に対する指針を定め、入居時に説明、同意を得ており、状況に応じて関係者と話し合いをしている。運営推進会議の中での、医師による「認知症や重度化した場合の状況や対応について」の講話で、関係者の理解を深めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。記録などの個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管している。個人情報の取り扱いについては、利用目的の同意を取っているが、広報紙などの写真掲載などについては口頭にて同意を得ている。</p>		<p>個人情報の利用目的の内容を見直し、個人情報の取り扱いに関する徹底を図ることを期待する。</p>
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の基本的なスケジュールはあるが、入居者一人ひとりのペースに合わせている。食事や入浴のタイミングをはかったり、希望に応じて散歩に行くなど、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と職員は同じ食事をしている。ホームの畑では野菜が栽培されており、入居者と職員が収穫した野菜が食卓に並ぶこともあり、季節のものが味わえている。入居者一人ひとりのできる力を活かし、調理の準備や後片付けを職員と一緒にしている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>一日おきの入浴を基本としながら、一人ひとりの希望に応じていつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒む入居者に対しては、職員の声かけやタイミングに配慮しながら、気持ちよく入浴できるよう努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの特技が発揮できるように、将棋、囲碁、花札、畑づくり、猫の世話など様々な場面づくりを行っている。また、季節感を味わえるよう、餅つき、ドライブなどを行い、気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候、入居者の希望に応じて、日常的にドライブ、散歩、買い物、喫茶店へ出かけている。一人ひとりが外出を楽しめるように、その日の希望にも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、入居者が庭などのホーム周辺を散歩できるようにしており、職員は見守りにて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、消防団の協力を得て、年2回の避難訓練を行い、地域の避難訓練にも参加している。夜間を想定した避難訓練も行っているが、全職員の周知には至っていない。		ほとんどの職員が島外在住であるため、夜間の災害は特に不安を感じており、夜間を想定した訓練の充実が望まれる。地域住民への理解を得るため、次回の運営推進会議で呼びかけを行うとのことであり、更なる取り組みを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立がある程度決まっている食材を一括購入して、職員が味付けを行っている。一人ひとりの1日の食事量や水分量を把握し、定期的な医師の診察でアドバイスも受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節感のある花や飾り物を飾っている。リビングの窓からは、周囲の豊かな自然が見え、ホーム内からでも外の季節の移り変わりを感じることができる。リビングの外にあるウッドデッキからは海を眺めることができ、天気の良い日には日光浴をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビなどの入居者の馴染みのものが持ち込まれ、入居者それぞれがその人らしい部屋で過ごしている。また、居室ドアには手作りの表札がかけられている。		